



函館市地域交流まちづくりセンター
センター長

函館市青年センター
センター長

丸藤 競 池田孝道

池田孝道 [プロフィール]

函館市出身。38歳。函館市青年センター・センター長
函館ラ・サール高校卒業後、大学生活を含め10年間を関東で過ごす。地元に貢献したいという思いから函館に戻り、函館市青年センターに勤務。6年の勤務を経てセンター長に就任。若者支援にあたっている。

【聞き手】函館市地域交流まちづくりセンター
センター長 丸藤 競

今回は、12月1日に函館市青年センターの新センター長に就任した池田さんに、今どきの若者像や施設運営への思いをお聞きました。

対談

丸藤 新センター長就任、おめでとうございます。

池田 ありがとうございます。

丸藤 まずは、青年センターはどんな施設なのか、教えてください。

池田 設置目的を読むと、「青少年の教養の向上」「健康増進」「情操の純化」を目的とした施設となっています。これを私なりに解釈すると、「若者のためになること」をしようことだと考えています。若者のサークル活動の応援をしたり、講座を企画したり、相談にのったりですね。

丸藤 応援ということっ。

池田 メンバー募集の手伝いだったり、日頃の活動の成果を発表する場を一緒に作りあげたりなどもしています。

丸藤 私も「青年」の中に入れますか？

池田 年齢でいくと、15歳以上29歳未満となっています。

丸藤 ぜんぜんダメですね(笑)

池田 でも、利用していただくのはどなたでも自由です。青年が使ってない昼間の時間帯などは年齢が上の方も多く利用していますし、勉強スベ

特集

はこまち対談

若者の支援を続けたい



一スがあつたり、2階では図書貸し出し、ロビーでは飲食もできます。

丸藤 市電の千代台電停のすぐそばなので、気軽に入ってもらいたいですね。

池田 年配の方、コソコソが青年の方などたくさん来られています。条件を満たした青年団体は減免で施設を利用できますし、一般団体も有料ですが大歓迎です。夜は10時まで開館しているので、仕事や学校が有る方からはとても喜んでもらっています。夜の時間帯は、全ての部屋が使われていることが多いですよ。

丸藤 どんな活動をしていますか？

池田 「青年」の枠で活動しているところだけで49団体。まだ増えると思います。最近は、ダンスサークルが多いですね。あと演劇の団体も増えています。

丸藤 体育館もありますね。

池田 硬いボールは使えないという制約はありますが、ソフトバレーとかバドミントンとかも盛んです。あと、マーチングバンドも熱心ですね。

丸藤 今どきの若者は、どんな感じですか？

池田 青年センターを利用していらっしゃる方は、凄く向上心があって頑張っている感じがします。真っ直ぐな気持ちが出ていますね。

丸藤 みなさん、元気に挨拶してい

かれますね。

池田 「こんにちは」とか「ありがとう」って声を聞くと、とても気持ちよく仕事ができます。

丸藤 広報誌からも、楽しそうな雰囲気伝わってきます。

池田 実際、楽しくつくっています。(笑)

丸藤 建物の古さを感じさせませんね。

池田 昭和44(1969)年に建てられたそうです。私自身、就職試験の面接で初めて来たとき、古いけど綺麗だなと感じました。中に入ると、みなさん活発に活動しています。プログラムの刺激を受けました。

丸藤 とところで、池田さんは青年センターで働く前は何をしていたんですか？

池田 光学レンズの研究開発です(笑)

丸藤 全く畑違いですね。戸惑いませんでしたか？(笑)

池田 利用者さんもスタッフも理解がある方ばかりで、仕事を覚えるのにも苦労したというよりはあまりありません。とても自然に育てていただいたので、感謝しています。

丸藤 仕事をしていくうえで、心掛けていることはありますか？

池田 利用者とのコミュニケーションを積極的に行なうようにしています。例えば、青年センターフェスティバルのステージを一緒につくりあげていく

といったことをすると、全く距離の縮まりかたが違います。その中から聞ける声もあります。

丸藤 家に帰ると、イクメンのパパだとか(笑)

池田 家族サービスが趣味です。洗濯は得意ですよ(笑)新しい家族も増え、子どもから学ぶことも多いです。センターの業務にも活かせると感じています。

丸藤 12月1日からは、新センター長という立場になりました。抱負を聞かせてください。

池田 前センター長の仙石さんは20歳くらいから市民活動や大きなお祭りの陣頭指揮をしたりして、若い人をグイグイと巻き込んできました。私とは経験などが違います。だから同じようにはできません。自分なりにできることは何かと考えたのですが、どんなことが若者のためになるのか、ニーズを正確に調査して必要なことを提供していきたいと考えています。

丸藤 その施設のトップの個性が施設の雰囲気をつくっていくので、池田さんらしさを活かしていくのが良いと思いますよ。

池田 力まずに(笑)、池田に任せようと思っただけだった気持ちに配慮されるようにしていきたいですね。

丸藤 函館のまちについては、どう思

っていますか？

池田 以前は、さみしい気持ちになっていました。お店がだんだんなくなっていくと、人口が減っていくことを目の当たりにしたので。でも今は少し考え方が変わりました。仕事以外のところでサークル活動などで輝いている若者を見ると、光がさしてくるよう感じます。

丸藤 今後の夢は？

池田 若者のため、まちのためになることをしていきたいですね。具体的には、若者の働ける環境をつくりだしていきたい。私には企業を誘致するのは無理ですが、クラウドソーシングのように企業が発注したものを個人がフリーランスの立場で請け負うための支援ならできるかもしれません。函館には優秀な若者がたくさんいるので、そういう人が函館で充分な収入を得られるようになればいいなと思います。

丸藤 実現できるといいですね。

池田 そうですね。そのためにも、まずは青年センターにぜひ足を運んでもらいたいです。居心地の良い施設ですし、いろんな相談にも応じます。「一緒にいろんな物をつくりあげていきましょー」